

読書術いろいろ

実のある
読書時間を
過ごすための
本の読み方



本の読み方

仕事に活かす読書法

世界のエリートは

10冊しか本を読まない

「本を読む目的は課題解決」であるとし、本で手に入れた知見を、ビジネスでいかに実践するかを説く。その方法はいったって簡単、自分の課題に直結する本10冊をデスクに置いておき、必要の際にその都度参照するというものだ。今の自分に合った本を意識の届く範囲に置くことで、数を読むことよりも、実際の行動に移しやすいという。

サンリオの時価総額を7倍にし、ピジョン、LINEの社外取締役も務める著者が、ハーバードで学んだ世界最強の読書術を明かす。



鳩山 玲人 / 著
SBクリエイティブ 2017年
所蔵：中央・江古田

戦略読書 増補版

戦略的な読書を通して想像力、発想力を鍛え、代わりのいないオリジナルな自分になる方法を伝授。「読書＝個人の学習活動」を経営戦略論の視点から捉え、「何を」「いつ」「どう」読むかを提案する。みんなと同じ本を読むだけでは、同じような発想しか生まれない。差別化した人

心を満たす読書法

「処方せん」的読書術

現代の競争社会、精根尽き疲れ果て、中々前向きな気持ちになれない…多くの人が一度は悩んだことがあることと思う。本書では、そんな生きづらいつらい世の中に振り回されないための「心に効かせる」読書法を紹介。人と違い、本は何時間でも気が済むまで相手をしてくれる。本を心の支えにできる読み方、選び方、使い方を寄り添うように説く。疲れた時は、楽しむため、知識を得るため、ノウハウやスキルを学ぶための読書とは違う、「救われる読書」を試してみてもどうだろうか。



三谷 宏治 / 著
日経BP日本経済新聞出版本部 2015年 所蔵：南台

とは違う読書を通し、思索を繰り返すうちに、しなやかで強いキャリアを手に入れることができる。著者は説く。他にも「知の見える化」を狙う書齋の作り方など、著者が培ってきた読書術の集大成がここにある。巻末にブックガイド付。気になった本を自分なりに吟味するのも面白い。

ユニークな読書法

読書の教科書

読書するにあたり大切なことは、量や速さではなく「質」である。以上の理念から本書で提案される読書法は「精読」だ。学生時代の国語の授業でおなじみの文章を段落ごとに区切り、文の意味を考えつつ順序通り丁寧に精読していく、あの方法である。「今更精読？」と嫌気が差した方もいるかもしれない。しかし、精読で文章の中心を読み取る基礎的な力が付けば、自然と速読も可能になるという。文章の理解が深まり、なおかつ早く

皆様は、どのくらいのペースで本を読んでいるだろうか。1週間に1冊？それとも1日に1冊(!)? 本を読むスピードは人それぞれだと思いが、近年では「速読」に関する書籍の出版が目立つようになっている。速読とは、文字通り「速く読むこと」だ。現代の情報化社会では、限られた時間の中、より多くの本を読み、より多くの知識を蓄えることが重要視される傾向にあるため、あらゆる速読法が世に出回っている。しかし、速読法だけが読書法ではない。一人ひとり性格が違うように、読書方法も人によって正解が違うはずだ。

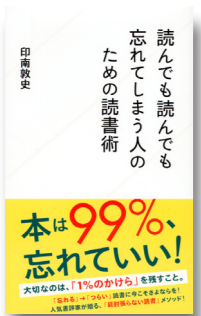


奥野 宣之 / 著
角川書店 2012年
所蔵：江古田

読んでも読んでも

忘れてしまう人のための読書術

読んでも読んでも、本の内容を忘れてしまう。そんな自分が嫌になって、だんだん本を読むのが辛く、億劫になる。そう感じている人はいないだろうか？本書はそんな悩みを軽々と吹き飛ばしてくれよう。本の内容は覚えられなくて当たり前！むしろ忘れて当然と開き直り、たった一文、一言でもいい、心に残る興奮した瞬間を大切にしたいと著者は言う。読書体験が気軽で、楽しいものになれば、自然と覚えられれる量も増えるもの。覚えてなければならぬ、記憶できない自分は劣っている、という思い込みを解きほぐし、肩ひじ張らない読書法を提案する。



印南 敦史 / 著
星海社 2018年
所蔵：南台

読めるようになれば一石二鳥である。具体的な精読の実践法の他に、意外と知らない本や読書そのものの基礎的な知識も学べる、本を読む意味について考えさせられる一冊。



渡辺 知明 / 著
芸術新聞社 2019年
所蔵：中央

精読こそが完全な読書術である

不思議なタイトルである。「精読」とは、本を買ったまま読んでいないことを指すが、著者によると、精読も立派な読書術であるという。本を読まずに放置する行為はどこかうしろめたさを感じるが、本書では肯定的だ。情報が濁流のように押し寄せ消化が困難な現代、あえて精読をして、自分だけの読書空間を構築することが重要だという。気になる本をまず手元に集めて、拾い読みを繰り返すうち、これだと思える名著に出会えるのだ。バイヤール、アドラーをはじめとする古今東西で読み継がれてきた読書論を通して、「精読」の方法を丁寧にひも解く。

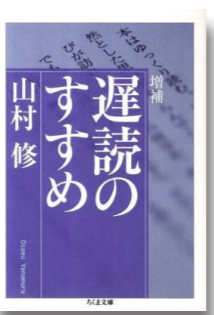


永田 希 / 著
イースト・プレス 2020年 所蔵：鷺宮

遅読のすすめ 増補

遅読、すなわち、ゆっくり読むこと。

速読とは無縁の読書姿勢である。速読がもてはやされがちだが、読書には時間をかけて読むことでしか得られない効能がある、と著者は言う。ここで意味するところの「ゆっくり読む」とは、自分で心地よいと思えるリズムに合わせて読むことだ。そして、今まで読み飛ばしていたような一つ一つの文章の奥深さを知り、読書の喜びを噛みしめる――。効率と速度ばかり重んじる世の中に異を唱え、「幸福な読書」について考えた一冊。



山村 修 / 著
筑摩書房 2011年
所蔵：東中野

読書法は十人十色、人の数だけ存在する。どんな方法が自分に適しているか、最初は迷いながらのスタートかもしれない。けれど、色々な方法を試すうち、必ずピンとくるものがあるはず。自分だけの本の読み方を、ぜひ図書館を活用しながら探してみよう。読書がもつと身近に、実りあるものになるよう、中野区立図書館は皆様の利用をいつでもお待ちしております。

※ 本誌の掲載内容・お知らせ情報は記事作成当時のものです。